

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( ~~認知症対応型共同生活介護事業所~~ ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	社会福祉法人エムアール会 グループホームグリーンピア(ユニット1)	評価実施年月日	平成19年 5月 16日 ~ 5月 28日
評価実施構成員氏名	小鴨ツヤ子 片岡 久代 蛭子井知子 柴田 益子 盛 田 大 五十嵐孝子 土佐 亮一 長谷川和枝 小泉 直子		
記録者氏名	小鴨ツヤ子	記録年月日	平成19年 5月 30日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	18年度に地域密着型になってからは見直されていない。以前の理念はあり、常に目に入りやすい所(玄関、フロアー)に掲示してある。	○ 早急に取り組む予定であり、理念を見直し新しいのを作成する。
2	<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	以前の理念であるが日頃より理念を共有し個人を尊重し出来るだけ笑顔が見られる様に日々努力している。	○ 地域密着型の理念が出来したい、その理念を共有しながらケアサービスを行っていく。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	家族様には理念について訪問時に説明したり、GHのパンフレットで紹介している。しかし、地域に対しての取り組みは出来ていない。	○ 地域の人には広報紙を配布したり、ホームの見学に来てもらい理念を伝えていく。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	気軽に立ち寄ってもらえる様、玄関前にブランタン、ベンチ、テーブル等を置いている。会ったらほとんど挨拶程度のつきあいであるが、畑で会う時には言葉をかけて会話をしている。	○ GHでの行事の時に誘い、交流を深める。GHのことが親しみやすく、わかり易く説明するための掲示板が必要
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	自治会、老人会には入会していないが地域の祭り、保育園の運動会には出席させてもらっている。同一法人での行事には地域の方々も出席されており、GH入居者様にも声掛けをしていただいている。	○ 地域活動に参加出来る様にしたい。
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	地域の高齢者の状況は事業所としては十分把握されていない、話し合いの機会ももたれていない。	○ 高齢者にとって今一番暮らしに役立つ事(認知症、転倒予防、低塩食生活等)について、地域の方に分かり易く勉強会を開く。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>自己評価、外部評価について反省会を開き、評価の説明を受け、改善に向けて取り組んでいる。その結果、更に職務に対して意欲が湧き、ケアサービスに生かしている。</p>	
8	<p>○運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>概ね2ヶ月に1回運営推進会議を行っている。北区の関係者、地域住民、入居者様、家族様から意見、要望をもらうようにし、話し合いがなされている。</p>	
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>北区の管理者会議等に参加したり、市や北区に相談したり意見を頂いてサービスに活かしている。</p>	
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>学ぶ機会がなく、勉強会も計画していない。家族から相談があった時には管理者から説明している。</p>	<p>○ 権利擁護、成年後見制度についての勉強会が必要である。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>虐待については常に職員一同注意を払い情報交換している。転倒事故等も考慮して身体チェックも行い、気づいた事は記録に残している。</p>	<p>○ 法律についての勉強会を開く。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時には管理者が家族様に時間をかけて説明している。家族様に不安が認められた場合には、更に時間をかけ納得いただくまで説明している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>普段の不満、意見は各スタッフが聞き対応しているが、特異な不満、苦情、意見等の声が聞かれた時にはすぐに管理者に報告して対処してもらい、利用者が職員に話しやすい雰囲気作りに心がけている。</p>		
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>毎週1回、連絡帳に近況を記入して家族様の来訪時に目を通していただいたり、面会時に職員から状況を報告している。遠方の家族様には広報紙を発送して、最近の状況もお知らせしている。</p>		
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>家族からの不満、意見はスタッフや管理者が受けとめ、その都度職員で話し合い改善したり取り入れたりして運営に反映している。</p>		
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>ユニットでの会議時に提案があれば話し合い、職員の要望を管理者に提案して聞いてもらい運営に反映している。</p>		
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>その時、その日の状況に合わせて管理者が調整している。職員の急病、急な休み等には柔軟に対応出来る体制ができている。</p>		
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>ユニットの職員を固定化し顔馴染みの職員によるケアを行っている。新しい職員が入ったら入居者様に紹介している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	GH独自の学習会が年に何回かあり、北区の研修会に参加する機会もある。	○	研修後の報告を公表したり報告書を書く。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	同業者との交流については、管理者同志が交流・連携を図っており(特に北区事業者)、その内容についてはスタッフに情報として提供し質の向上に取り組んでいる。		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	管理者は職員個別に対応している。入居者と離れて一息入れられる時間、場所がある。		
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	職員の健康診断は毎年行っている。勤務状況を見て希望休が出来るだけ取れるようにしている。また、疲労感、ストレスをためないよう親睦会など開催している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	以前に受けていたサービス機関からの情報等をもとに、見学时(来訪の際)本人様の現在の不安や、今後の希望を聞いている。		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	見学時の相談、その後入居にいたるまで不安や変化について電話にて対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	管理者が、本人やご家族の思いなど現状を聞いて、他の社会資源等の紹介を含め対応している。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	出来る限り本人がホームを見学し、住み変わることに納得してもらうよう家族とも相談している。やむを得ず、すぐ利用になった場合には、ご家族等になるべく回数多く来てもらい、安心感を持ってもらえるよう取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	人生の先輩として日常生活の中で一緒に時間を共有し会話、家事作業を手伝っていただきながら学んで支え合っている。	○	もっとゆったりと接して行きたいと考えている。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	来訪時、日頃の入居者様の様子を伝えたり、外出・外泊した時の様子を伺うなどしている。悩みや問題を話し合い共感し工夫している。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族歴を良く理解して入居者、家族の意見を考慮しコミュニケーションを取れる様に支援している。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族以外の方々の来訪も心良く受け対応している。外出・外泊した時には馴染みの理容院へ行っている。	○	全員の方に対応できていないので、家族と相談し検討していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	一人ひとり孤立しないように目配り、声かけをして皆様、居間に集いテレビを観たり談笑したりレクを行なっている。一つの家族の場という一体性を心がけている。食事は職員も一緒に会話しながら同じ献立を食べている。	○	その時の気分により孤立している入居者様も居るのでスタッフが話題提供したりレクの声かけをして関わりを持つ。
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	今まで継続的に関わりを必要とする利用者様家族がいないが退去した年の年賀状は出している。	○	管理者が、相談、アドバイスを行う。今後その様な要望があれば対応していきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアプランのアセスメントの中や、日々の日常生活の中で個人の希望を聞き出し検討に努めている。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	日常の会話の中からこれまでの暮らしぶり、環境を伺いこれまでの背景を大事にして細やかなニーズを探り使い慣れた家具や思い出の品物を身近に置いての生活を支援している。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一人ひとりの1日の過ごし方を把握している。個人記録、申し送りなどでスタッフが共有、観察の継続を図っている。	○	一人で過ごす時間にも都度対応していく、
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人、家族の意見を取り入れユニット会議を行いケアマネのアドバイスを受け現在の入居者のニーズに応える様に6ヶ月ごとに介護計画を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	○	見直しの必要が生じた時は、細やかに、より適切な介護計画を作成する。
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。</p>	○	スタッフがもっと細かく状況観察をして記録に残すようにする。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	○	今後、GHとして認知症の人の相談を出来るように窓口を作るなど、地域の相談に応じられるようにしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>		利用者が安心して生き生きと暮らしを作れるような公的機関の協力や行事を通してボランティアの慰問など取り組みをしている。
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。</p>		同一法人の中にケアマネージャーがおり老人デイサービスでの催しごとに参加させてもらっている。温泉、慰問、すこやか倶楽部との交流もある。入居前のケアマネの来訪もある。
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>		運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加しており、会議前の電話などで、相談等を行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43 ○かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>かかりつけ医が居ていつでも相談が出来る。医療連携体制の中で看護師と連携をとって健康管理や医療面でのアドバイスも受けている。</p>		
<p>44 ○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>専門医を確保しており、定期的な受診の他必要時は相談している。</p>		
<p>45 ○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>GHとして看護師は居ないが法人が運営している他事業に看護師が配置されているので、その看護師に相談している。また、医療連携の看護師がおり24時間対応体制が取れている。</p>	○	<p>より迅速な対応をしていきたいので、GH内に専門の看護師がいる状態が望ましい。</p>
<p>46 ○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入院時には最近の様子や、服薬情報・ADL等を含めた添書を医療機関に提出している。また、家族とも情報を交換して早く退院出来る様にしている。</p>		
<p>47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>重度化した場合や終末期になった時のマニュアル、指針があり説明し共有している。</p>	○	<p>終末期に伴うGHでのケア方法を学び、家族、Dr.、看護師との話し合いをしていく。状況の変化にはその都度家族の気持ちや本人の思いに注意を払い支援していく。</p>
<p>48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>現在対象となる利用者が居ない為準備、支援の仕方が分からない。</p>	○	<p>今現在迄当ユニットに居なかったため今後のことを考えて勉強会が必要。休日、夜間の対応を含めた体制作りが必要。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>これまでの暮らしの継続が出来る様に情報を提供し細かな連携を心がけている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取扱いをしていない。</p>	<p>書面に関してはプライバシーの確保は徹底が成されている。一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけや対応には十分配慮しているが十分ではない。</p>	○	<p>入居者の誇りやプライバシーを損ねない対応について勉強会で職員の意識向上を図る。</p>
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>自己の決定を優先しているが自ら表現できる場面が少ない。決められない時には理解しやすいように説明している。</p>	○	<p>自ら決定出来るような場面をスタッフと作って、スタッフが先に手や口を出さず待つようなケアをする。</p>
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>一人ひとりのペースを把握して利用者様の出来るかぎり希望に沿った支援をしている。好きな番組を終了する迄テレビを観ていたり散歩、買物に柔軟に対応している。</p>	○	<p>更に入居者様のペースで生活出来るように希望を聞く。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、利用・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>外泊時、家族が理容院へ連れて行ってくれる方や同一法人に来ている理容院、美容院を家族からも依頼されて利用している。声かけをして髭剃り、服の着方の見守りをしている。</p>	○	<p>女性には口紅、眉描きなどの声かけをして意欲を引き出すようにする。</p>
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>その方に合わせ、準備、食器拭き、後片付け等の手伝いをさせていただいている。食材の下ごしらえ、味見もさせていただいているが職員からの提供であり自発的な参加ではない。</p>	○	<p>食事作りの時間帯に居間から食堂に移動していただき食材を見ながら会話して楽しみながら準備を行えるようにする。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	お茶の時間に好きな飲み物、おやつを提供している。タバコはDrよりストップが掛かり禁煙している人もいる。お酒は以前たしなんでいた入居者も自身でほしくなくなり飲まなくなった。おやつはGH側から決められたものを日替わりで提供している。	○	今後は入居者の好み、希望を取り入れた買物をしていく。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	車椅子対応の方には、その都度確認してトイレ誘導を行なっている。オムツを使用せずトイレでの排泄をしてもらう。自立している方にも排便回数、状態、パターンをチェックし支援している。気持ちの良い排便を促す為に運動、食事、水分の声かけをし、時には効果的な下剤の使用を行う。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴したい日に入浴していただいているがGHの都合で時間は午後から夕食時間迄と限られている。入浴を拒む入居者には職員も一緒に入り安心感を持ってもらう工夫をしている。	○	入浴拒否の入居者様には、興味をもってもらう為に浴室に絵、飾り絵、花を浮かばせるアロマ・テラピー等を行って気分に合わせて誘ってみる。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	傾眠気味な時は状況によって仮眠してもらう。低血圧で起床の遅い方、朝食後に臥床される方、夜間頻尿で日中居眠りの強い方等には休憩することを支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	入居者の生活歴を考慮して食器拭き、調理、洗濯物たたみ、掃除、庭の手入れ等を手伝っていただいている。レクに参加されカラオケ、将棋を楽しんでいる。	○	もっと個人的に好きな事を引き出し、楽しんでもらえる様に提供する。
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金の管理が出来る入居者様には立会・助言等をしている(1名)。お祭りなどで使う都度家族様了解の上、預り金から引き出しているが、本人が支払う場面は作っていない。	○	今後外出やお祭りなどの際は自分でお金を使える様に支援していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気、本人の希望に応じて散歩や買物に行っている。催物がある時は出かけているが日常的ではない。	○	声かけをして戸外に出られるように工夫して支援する。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが言ってみたい普段はいけないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	行事で入居者様の希望も取り入れて動物園、大型公園、お花見、回転寿司へ行っている。家族様の参加もあり支援している。	○	大型スーパーでの買物希望があり6月22日予定している。家族にお知らせして了解を得ている。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話は入居者様より希望があれば支援している。手紙は入居者様に配達された手紙は要望があれば、代読支援している。	○	季節ごとに入居者様が手紙を家に書く様に支援する。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも訪問できる雰囲気作りをしている。居室で談笑されている。椅子やお茶を出して職員とも最近の入居者様の近況を話している。訪問時間は定めておらず仕事帰りに訪ねてくれる雰囲気作りをしている。	○	居室内だけでなく、全体をながめられる居間、小上がりを使用してもらう。
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	車椅子の方には特に身体拘束しない様に見守りを強化して危険防止に努めている。	○	身体拘束をしないケアの勉強会を再確認のため行う。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関の施錠は家族様の同意を得ている。離脱しがちな入居者様もおり玄関前の道路は交通量多く危険防止のためにも夜間は防犯上玄関施錠を行なっている。	○	日中は目配り気配りを行い、一人ひとりの状態を把握する。夜間のみ施錠する様に努力する。(センサー、鈴を付ける様に)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	常に所在を把握している。居室に入る時にはノック又は声かけをしてから入室、さりげなく気分を損なわない様確認している。夜間は全居室が見通せる位置に居て、定期巡回も含め安全確認している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	本人の意思を尊重している。危険な洗剤類は掃除ロッカーに鍵をかけて置いている。包丁、ハサミ、刃物類は物品庫に鍵をかけて保管し、必要時に渡している。医薬品類も物品庫に鍵をかけて保管している。先の尖った物、火の元になる物は、必要時に手渡す事を契約時に説明している。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故防止に日頃から取り組んでおり知識もあるが全体的事例が少なく経験不足である。4月25日、防災訓練があり、その他転倒、誤薬は職員が連携を取り医療従事者に報告している。	○	ちっ息、行方不明等を含め説明会を早急に実施したい。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急搬送のマニュアルは作成されている。救急救命の勉強会は年に1回行なっている。	○	急変時に何から先に行くか、又落ち着いて対応出来る様に学習会を早急に行う。(6月に開催予定)
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	災害時同一法人が近接地に設置する施設の守衛に連絡する。入居者様避難方法は防災訓練時に説明があった。	○	地域の人にGHの説明をおこなったり見学していただいたりして絆を深め、協力を依頼していく。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	予測出来るリスクは来訪される家族に話している。来訪されない家族とは話していない。	○	遠方の家族とも手紙等で相談をもちかけてみる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>常に表情、身体の状態観察を行い異変を感じたらすぐに他職員に伝えバイタルチェックを行い看護婦及び管理者に報告申し送りして記録を残す。家族様にも報告する。</p>	○	<p>更に申し送り、記録を細かく記入する。職員間の連携を高めるようにする。</p>
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>服薬チェックは何重にもチェックするシステムがあり実行している。副作用が疑われる時は医師に相談することになっている。服薬時には口腔内に入れ飲み込むまで確認している。</p>	○	<p>個別のファイルで薬の情報説明書が整理されているので、全スタッフが各自しっかり把握するように努めて、薬に変更があった時はいつもより詳細に観察し記録する。</p>
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。便秘が続く時はDr指示にて緩和剤を使用している。</p>	<p>食事時おやつ時は水分チェックされており、毎日の運動に歩行訓練や足上げ運動を取り入れている。食事のメニューに野菜を多く取り入れたり乳製品を取り入れたりしてスムーズに排便されるように対応している。</p>		
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食後、口腔ケア支援を行なっている。自分で出来る入居者様には声かけをする。義歯使用者は義歯洗浄剤に週3回浸けている。</p>	○	<p>歯磨きを拒否する入居者様には今後どのように促すのが良いのか話し合いが必要。自力で出来る入居者様には毎回声かけをしていく。</p>
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。食事のカロリー、献立は外部だが管理栄養士さんが行っている。</p>	<p>ケアプランにも取りいれ、毎食後、食事量、水分量の把握支援を行なっている。食物の硬さ、味付けの好みに出来る限り合わせ、小さく切ったり軟くしたりなどと支援している。</p>		
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>外出後は入居者様、職員も必ずうがい手洗いをその都度行なっている。ノロウイルス対策には塩素系洗浄剤で居室、洗面所、手摺等を拭いている。インフルエンザの予防注射は全員実施している。</p>	○	<p>疥癬、肝炎等全てのマニュアルを作成する。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食中毒予防の為、食材は新鮮、安全な物を使い1回分使い切りとして残り物を提供しない。調理用具は毎日消毒している。シンクの掃除や生ゴミは毎食後ごとに行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	親しみやすく玄関に入れる様にプランター、置物、花、イルミネーションを飾ったり玄関内には入居者様写真を飾っている。ベンチ、テーブルも置き工夫している。	○	玄関の外にも外部へ向けてのGH掲示板の設置を検討する。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節に応じた装飾をして季節感、生活感を取り入れている。入居者様の手作り作品を飾ったりしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	広い居間、ソファ、小上がりもあり自分の居心地の良い所でお茶を召上ったり談笑されたり、将棋を楽しまれている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた家具や、家族の写真を置くなどして居心地良く生活できる様に工夫している。寝具も馴染んだ物を使用している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	温度計、湿度計は全居室に設置している。冬は加湿器を2台設置、空調を使ったり窓を開けたりしている。居室掃除の時、シーツ交換時にも窓を開け換気に気をつけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>ホーム内はバリアフリー、各居室の床はクッションフロアになっている。手摺の設置もしており、フローアも広くどこでもスムーズに歩行できる。通路には余分な物を置いていない。</p>	<p>○</p> <p>転倒した場合、危険である為居室内にも手摺が必要。浴室洗場にも手摺がほしい。脱衣所の床も滑りやすいため検討をしていく。</p>
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>自室の前、トイレはプレートや名札を目印にしている。食器類、ランチョンマット等は見やすいようにガラスの扉に保管している。居室内のタンスにもシールを貼って分かりやすくしている。</p>	
87	<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>前庭にはベンチ、テーブルを置き園芸を楽しんだり収穫を喜んだりしている。ベランダには洗濯物干したりして入居者様利用している。夏にはホーム前の駐車場を使ってバーベキューや花火なども行なって楽しむ。</p>	

V. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない ②
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない ②
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ①
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ②
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ④
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ②
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ③
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない ③
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない ③

V. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない ③
98	職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない ②
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ②
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない ②

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

1. 運営理念のもと、出来るだけ家庭的な環境を提供し、利用者の皆様が毎日少しでも多くの笑顔をもって、安心して生活出来るよう心がけています。
2. ホーム及び各居室は広く、明るく、スプリンクラーの設置など安全に配慮し、エレベーターも設置し、ホーム前には8台～10台の車両が駐車できるスペースを確保し、夏はこの場所を利用してバーベキューや花火大会を開催しています。日々